

認知症高齢者がたどる4つの過程

高齢者の心理的特長から認知高齢者がたどる4つの過程＝4つの解決ステージ

	第1段階 認知の混乱	第2段階 日時、季節の混乱	第3段階 繰り返し動作	第4段階 植物状態
基本的介護の姿勢	<ul style="list-style-type: none"> Who, When, Whereのような質問は使うが、Whatは使用しないようにする 体に触れるのは最小限にする まだ保たれている部分も多いので、必要以上にその人の心に立ち入ったり、慣れなれしく過ぎないように注意 	<ul style="list-style-type: none"> 「感じる」という言葉を使う 例)「あなたの気持ちは良くわかりますよ」「あなたの寂しい気持ちは良く理解できますよ」 「感じる」という言葉を使う優しく触れたり、アイコンタクトを使用する 	<ul style="list-style-type: none"> 優しく触れたり、アイコンタクトを使う ゆっくりとした本人のペースを保つ 本人と同じように感情や行動する(鏡に映っているように、心の動きや行動を本人と同じくし、本人の気持ちを理解する) 	<ul style="list-style-type: none"> 優しく触れたり、髪をなでたりと言った感覚的刺激を用いる 音楽の利用は効果的
オリエンテーション(見当識)	<ul style="list-style-type: none"> 時間感覚はほぼ保たれている 現実に対する認識は比較的保たれている 自分自身が混乱した状態であることを自覚している 	<ul style="list-style-type: none"> 時間通りに行くことができなくなる 実際にあった事、名前、場所さえも忘れる。 新しく名前を覚えることが難しくなる 	<ul style="list-style-type: none"> ほとんど外界からの刺激を受け付けなくなる 本人独自の時間間隔になる 	<ul style="list-style-type: none"> 家族、訪問者、古くからの友人、スタッフのことが判別できなくなる。 時間の感覚がなくなる
身体状態	<ul style="list-style-type: none"> 筋肉は緊張気味 早い動きについていけない 目的を持ったしっかりした足取りで歩ける 	<ul style="list-style-type: none"> 失禁に気づいている ゆっくりではあるがスムーズに動ける 	<ul style="list-style-type: none"> 前方へかがみがちになる 失禁に気づかなくなる 不安で歩き回ったり、休みなく指を動かし続ける 子供時代の動作、歌を繰り返したりする 	<ul style="list-style-type: none"> ほとんど寝たきり状態 動きがほとんどなくなる 排泄をコントロールできなくなる
声の調子	<ul style="list-style-type: none"> 声をあげたり、非難したり、時に暴言をこぼしたりする すぐに歌える 	<ul style="list-style-type: none"> 低く、めったに荒々しい声は出さない 	<ul style="list-style-type: none"> ゆっくり落ち着いた感じ 	
視線	<ul style="list-style-type: none"> 目は曇りなくはっきりとしている 相手にはっきりと視線を合わせられアイコンタクトもしっかり出来る 	<ul style="list-style-type: none"> 瞳ははっきりしているが、焦点をあわせにくくなる 伏目がちでアイコンタクトが認識のきっかけになる 	<ul style="list-style-type: none"> 目を閉じていることが多くなる 	<ul style="list-style-type: none"> 目はほとんど閉じている ボーとしており焦点は合っていない
感情	<ul style="list-style-type: none"> 否定的感情、抑うつ気分 	<ul style="list-style-type: none"> 最近の記憶がないので昔の記憶や感覚を今と置き換える 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な感情表現ははっきりと表す 	評価不能
自己管理	<ul style="list-style-type: none"> 基本的なことは出来る 自分勝手に振る舞いが増える 	<ul style="list-style-type: none"> たびたび自分のものをまちがえたり、どこに置いたか分からなくなる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身の回りのことをするのが困難になる 	<ul style="list-style-type: none"> 全介助(全てに介助を必要とする)
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 良く知っている人や役割には、積極的に反応するが、あまり良く分からないことは消極的になる 笑顔で挨拶されると応じることが出来る 本人独自の言い回しが始まる(普通とは違う言い回しが始まる) 	<ul style="list-style-type: none"> 優しい声やタッチに反応する 	<ul style="list-style-type: none"> ごく普通の言葉をわずかしか使えなくなる 主に非言語的なコミュニケーションしか取れなくなる 言葉の代わりに動作で表現する 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションはほとんど取れない ごくたまに歌や優しいふれあいに反応する
知的機能	<ul style="list-style-type: none"> 盲目の場合を除いてほぼ読み書きは出来る ずっと続けてきた習慣、決め事を変えようとしなない 	<ul style="list-style-type: none"> 読むことは出来るが、読める漢字を書くことは難しくなる 自分勝手なルールを作る 	<ul style="list-style-type: none"> 読み書きの意欲はなくなる 遠い昔の記憶及びごく当たり前の一般的なものの以外、理解できなくなる 	評価不能
ユーモア	<ul style="list-style-type: none"> まだ多少のユーモアは理解できる とても個性的なユーモアを示す(他人には理解しにくい) 	<ul style="list-style-type: none"> ルール通りにゲームをすることが困難になる 	<ul style="list-style-type: none"> 自発的に良く笑う 	評価不能